

2022年度公開質問 食用油

質問①製品原材料の種類と原産国、遺伝子組み換えの状況について

質問
質問
質問
質問
質問

●不二製油株式会社

商品名	原材料名	原産国	遺伝子組み換え	使用開始時期
クックパル	なたね油	主にカナダ、オーストラリア	分別・ 不分別	1997年
	大豆油	主にアメリカ、ブラジル	分別・ 不分別	1997年
フリーール	綿実油	主にブラジル、アメリカ	分別・ 不分別	1997年
白絞油	なたね油	主にカナダ、オーストラリア	分別・ 不分別	1997年
	大豆油	主にアメリカ、ブラジル	分別・ 不分別	1997年
製菓用サラダ油	なたね油	主にカナダ、オーストラリア	分別・ 不分別	1997年

●日清オイリオグループ株式会社

商品名	原材料名	原産国	遺伝子組み換え	使用開始時期
日清キャノーラ油	なたね油	主にカナダ、オーストラリア	分別・ 不分別	1997年
日清サラダ油	大豆油	主にアメリカ、ブラジル	分別・ 不分別	1997年
	なたね油	主にカナダ、オーストラリア	分別・ 不分別	1997年
日清綿実油	綿実油	主にアメリカ、オーストラリア	分別・ 不分別	1997年

●株式会社J-オイルミルズ

商品名	原材料名	原産国	遺伝子組み換え	使用開始時期
さらさらキャノーラ油	なたね油	主にカナダ、オーストラリア	分別・ 不分別	J-オイルミルズ 発足当時より使用(2004年)
さらさらキャノーラ油健康プラス	なたね油	主にカナダ、オーストラリア	分別・ 不分別	
	ビタミンE	主にアメリカ、ブラジル	分別・ 不分別	
大豆油たっぷりサラダ油	大豆油	主にアメリカ、ブラジル	分別・ 不分別	
	なたね油	主にカナダ、オーストラリア	分別・ 不分別	

●昭和産業株式会社

商品名	原材料名	原産国	遺伝子組み換え	使用開始時期
キャノーラ油	なたね油	カナダ、オーストラリア他	分別・ 不分別	1997年
サラダ油ハンディ	なたね油	カナダ、オーストラリア他	分別・ 不分別	1997年
	大豆油	アメリカ、南米他	分別・ 不分別	1997年
ヘルシープレミアムキャノーラ油	なたね油	カナダ、オーストラリア他	分別・ 不分別	1997年
	ビタミンE		分別・不分別	

●理研農産化工株式会社

商品名	原材料名	原産国	遺伝子組み換え	使用開始時期
一番搾りキャノーラ油	なたね油	カナダ、オーストラリア等	分別・ 不分別	1997年
サラダ油	なたね油	カナダ、オーストラリア等	分別・ 不分別	1997年
	大豆油	アメリカ、ブラジル等	分別・ 不分別	1997年
業務用コーンサラダ油	コーン油	国内で製造されたコーン油を購入	分別・不分別	
業務用大豆サラダ油	大豆油	アメリカ、ブラジル等	分別・ 不分別	1997年

質問② 産地農場から輸出港、輸入港、貴社製造工場までの原材料の管理・輸送方法について

質問③ 原料トレーサビリティについて

質問④ 遺伝子組み換えの原材料を使用している製品に関して、今後、遺伝子組み換えでないものに変更する予定の有無と、その理由について

質問⑤ 現在、食用油については遺伝子組み換えに関する表示義務はありません。今後、検出精度の向上によりDNAの検出が可能になった場合、商品本体に表示を行う予定はありますか。

質問⑥ 消費者のなかには、遺伝子組み換えでない原材料を求める声もあります。今後、遺伝子組み換えでない原材料の製品を供給するためには、どのような課題があるとお考えですか。

質問⑦ ゲノム編集由来の原材料が入手できるようになった場合、使用しますか。

質問⑧ ゲノム編集由来の原材料を使用する場合、表示をされますか。

2022年度公開質問 食用油

	不二製油株式会社	日清オイリオグループ株式会社	株式会社J-オイルミルズ	昭和産業株式会社	理研農産化工株式会社
質問① 原材料の原産国及び非遺伝子組み換え原材料分別について	弊社では搾油は行っており、原料油脂の状態で購入先の製油工場からタンクローリー等で輸送します。	農家から集められた原材料は、各地域の集積所を経由し港湾サイロに運び、そこから大型のバルク（ばら積み）貨物船で輸送します。なお、原材料によっては、栽培地域で製造された原料油を貨物船で輸送することがあります。	原産国の輸出港から船で日本に入り、弊社工場サイロもしくは委託サイロに入荷します。	農家で生産された原材料は、地域の集積所、港湾サイロを経由し、貨物船にバラ積み輸送され、当社の製造工場に隣接したサイロに入庫します。	農家で生産された原材料は、各地の集荷施設を経由し港湾の積出施設に運ばれ、貨物船で輸送されます。
質問② 産地農場から製造工場までの管理・輸送方法について	主原料の入荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	主原料の入荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	主原料の入荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	主原料の入荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	主原料の入荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	主原料の出荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	主原料の出荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	主原料の出荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	主原料の出荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 *弊社では、主原料は出荷しません	主原料の出荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	製造ロットと入出荷ロットの対応付け記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	製造ロットと入出荷ロットの対応付け記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	製造ロットと入出荷ロットの対応付け記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	製造ロットと入出荷ロットの対応付け記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	製造ロットと入出荷ロットの対応付け記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
質問④ 非遺伝子組み換え原料への切り替えについて	変更する予定はありません。原材料の安定調達、製品の安定供給の観点から、当該原材料を変更することは現実的に困難であると考えております。	遺伝子組み換えの原材料を使用している製品はございません。また、遺伝子組み換え不分別の原材料を使用している製品に関して、遺伝子組み換え不分別でないものに変更する予定はありません。原材料の安定調達、製品の安定供給の観点から、当該原材料を変更することは現実的に困難であると考えております。	弊社では遺伝子組み換え不分別の原材料を使用しておりますが、現在のところ変更の予定はありません。使用している遺伝子組み換え不分別の原材料は、政府により安全性が確認されており、お客様への製品の安定供給を考えると、非遺伝子組み換え農産物では油脂原料として安定した数量の確保が困難なためです。	製品の安定供給のための原材料の安定調達が困難であると考えており、非遺伝子組み換えの原材料に変更する予定はありません。	現在、変更の予定はございません。原材料の安定調達、製品の安定供給の観点から当該原材料を変更することは現状困難であると考えます。
質問④ 遺伝子組み換え原材料に変更する可能性について	関連法令に基づいて適正に対応します。	関連法令に基づいて適正に対応します。	関連法令に基づいて適正な表示を行います。	その時の関連法令に基づいて適正に対応します。	関連法令に基づき適正に対応させていただきます。

	不二製油株式会社	日清オイリオグループ株式会社	株式会社J-オイルミルズ	昭和産業株式会社	理研農産化工株式会社
質問⑤ 非遺伝子組み換え原料入手に関わる状況変化について	原材料の安定調達、製品の安定供給が困難だと考えます。	原材料の安定調達、製品の安定供給が困難になると考えます。	お客様への製品の安定供給を考えると、油脂原料として非遺伝子組み換え農産物の安定した数量を確保することが必要と考えます。	製品の安定供給のための原材料の安定調達が困難な点だと考えます。	原材料の安定調達、製品の安定供給が困難だと考えます。
質問⑦ ゲノム編集原材料の使用について	安全性を含めて、開発、届け出状況を注視して参ります。	引き続き、安全性を含め国内外における開発・届け出状況を注視して参ります。	安全性を考慮し慎重に対応すべきと考えており、現時点では方針を決定しておりません。	現時点で取り扱い予定はありませんが、方針は決めておりません。引き続き安全性に関する情報や開発動向を注視して参ります。	今後も、状況を注視してまいります。
質問⑧ ゲノム編集原料使用の場合の表示について	関連法令に基づいて適正に対応します。	関連法令に基づいて適正に対応します。	関連法令・条例等に従って、対応いたします。	関連法令に基づいて適正に対応します。	関連法令に基づき適正に対応させていただきます。

●NON-GM原材料のみを使用していると公表しているメーカー

	平田産業有限会社	米澤製油株式会社
質問① 原材料の原産国及び 非遺伝子組み換え原 材料分別について	弊社製品に使用している原料菜種は非遺伝子組 み換えのオーストラリア産、もしくは国産の ものを使用しております。	原産国：日本・オーストラリア 分別状況：分別管理済
質問② 産地農場から製造工 場までの管理・輸送方 法について	オーストラリアからは現地で原料菜種をコンテ ナに詰めた後、基本的には開封することなく弊 社工場まで輸送し、工場ですべて開封するよ うにしております。	産地の受入施設への搬入時にトラック毎に品質 検査を行い、保管サイロにて分別保管。海上コ ンテナにて船便で日本に出荷。日本での通関後 は、委託している倉庫会社で専用設備を用いて フレコンバッグに詰め替えて保管。その後、ト ラックで弊社工場の原料倉庫に移送。なお、上 記の間、IPハンドリングを実施。
質問③ 原料トレーサビリテイ について	主原料の入荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	主原料の入荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	主原料の出荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 (生産者からの出荷記録という意味であれば)	主原料の出荷記録の保存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
	製造ロットと入出荷ロットの対応付け記録の保 存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	製造ロットと入出荷ロットの対応付け記録の保 存 <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無
質問④ 遺伝子組み換え原材 料に変更する可能性 について	弊社は非遺伝子組み換え原料を専門としている ため、原料を遺伝子組み換えのものに変更する 予定はございません。	変更する予定はありません。弊社は「安全が確 認できないものは使わない」という方針である ところ、遺伝子組み換えの原材料は現状では 100%安全だとは言いきれないと考えているか らです。
質問⑤ 非遺伝子組み換え原 料入手に関わる状況 変化について	現状での変化はありませんが、2023年にGM表 示法改正が控えているため、非遺伝子組み換え であることの担保を取る事が非常に難しくなっ ております。	需要が増加しているものと思われ、昨年度と比 べると価格は高騰しています。
質問⑥ 遺伝子組み換えでない 原材料の製品を供給し 続けるための課題につ いて	非遺伝子組み換えであることを証明するため、 産地から製造に至るまでのコストが大きな課題 です。	非遺伝子組み換え作物の生産を絶やさないため には、遺伝子組み換え作物よりも十分に高い価 格でこれを購入することによって、生産者に非 遺伝子組み換え作物を作付けする動機を与える 必要があると考えます。そのためには、消費者 には当該商品が一般の商品よりもある程度高い 価格となることを許容していただく必要があり ます。デフレが長期間継続し、価格の安い製品 が比較的重宝される環境下ですが、消費者の 方々にこれをご理解・ご納得いただくことが課 題であると考えます。
質問⑦ ゲノム編集由来の原材 料の使用について	使用しない	使用しない
その理由		現段階では弊社自身がゲノム編集作物の安全性 や生物多様性への影響を深く理解できていない 状況です。このような段階で弊社がこれを利用 することは避けるべきであると考えるからで す。

	平田産業有限会社	米澤製油株式会社
質問⑧ ゲノム編集原料使用の 場合の表示について	回答なし	表示する
その理由	使用する予定はございません。	新技術を用いて開発された原材料の使用に不安を感じたり、心情として嫌だと感じたりする消費者が多いと思われることを考慮すると、その表示は消費者が食品を選択するに当たって有益な情報であると考えます。